

大豊町史 近代・現代編 目次

発行のことば	大豊町長	渡辺 盛男
発行を祝す	大豊町教育長	永森 信良
町史発行を祝す	大豊町議会議長	北村 寿夫
序にかえて	町史編集専門部会長	都築 建康
大豊町の概要		一
第一章 行政		
序 説		八
一 明治維新の改革		一〇
(一) 四民平等		一〇
(二) 壬申戸籍		一一
(三) 徴兵令		一一
1 豊永郷の郷兵		一三
2 徴兵令の発布		一八
3 徴兵の免除		二〇
(四) 地租改正		二二
1 士族の金禄公債		二四
2 年貢から地租へ		二五
二 地方自治の推移		三二
(一) 地方自治		三二
(二) 郷制		三三
(三) 区制施行		三四
(四) 郡区町村制の施行		三五
(五) 府県会規則の施行		三七
(六) 区町村会法の施行		三八

(ト) 市制・町村制の施行	三九	(ト) 大豊村の発足	一一二
(ハ) 郡制の廃止	四一	(ハ) 合併までの経過	一一七
(ニ) 戦後の自治体	四一	(ト) 合併までの経過	一一七
(ト) 部落自治	四六	1 大豊村合併協議書	一一〇
三 大豊町行政区画の変遷	五一	2 新村建設計画書	一二三
(一) はじめに	五一	(ト) 合併後の進展	一三〇
(二) 区制施行	五一	(ト) 旧天坪村南部五部落の分村	一三四
(三) 郡制施行	五四	(ト) 旧村の懸案事項	一四一
(四) 市制・町村制の施行	五六	(ト) 新庁舎の建設	一四二
四 旧四か村のあゆみ	五八	1 第二次役場庁舎の改築	一四五
(一) はじめに	五八	2 農工センターと文化ホール	一四七
(二) 東豊永村	五八	(ト) 町制の施行	一四七
1 役場の変遷	六〇	(ト) 村章及び町民憲章の制定	一四八
2 戸長役所は大平へ	六〇	1 村章の決定	一四八
3 村政に跡を残した人々	六三	2 町民憲章の制定	一五〇
(三) 西豊永村	六六	(ハ) 人口の推移	一五一
1 役場の変遷	六八	(ハ) 財政の再建	一五五
2 村政に跡を残した人々	七六	(ト) 建設事業	一六六
(四) 大杉村	八三	1 農村工業導入団地の造成	一六七
1 役場の変遷	八六	2 大豊森林組合貯木場	一六九
2 産業振興事業	九二	3 四国横断高速自動車道	一六九
3 村政に跡を残した人々	九五	(ト) 町政に跡を残した人々	一七〇
(四) 天坪村	一〇六	1 大豊町出身県会議員	一七〇
1 併合と分離を繰り返す	一〇六	2 大豊町歴代議会議長	一七一
2 村政に跡を残した人々	一〇八	3 大豊町歴代議会副議長	一七一
		4 大豊町議会歴代議員	一七二

第二章 産業・経済

一 産業の推移	一八〇	(四) 葉煙草	二三九
(一) 農業の振興	一八一	1 沿革	二三九
1 明治の産業経済状況	一八二	2 明治の隆盛	二四〇
2 明治後期・大正・昭和期の農業の発展	一八五	3 葉煙草専売支局出張所	二四一
3 太平洋戦争前後の農業状態	一八六	4 煙草から養蚕へ	二四三
4 農業構造改善事業	一八六	(六) 畜産と養鶏	二四四
5 山村振興特別対策事業	一八九	1 牛馬	二四四
6 農林業の改良普及事業	一九二	2 奨励施策と流通機構の変遷	二四五
(二) 普通作物	一九三	3 酪農	二四七
1 米・麦	一九三	4 養豚	二四七
2 水稻品種の移り変わり	一九九	5 養鶏	二四八
3 その他の農産物	二〇二	(七) 林業	二五〇
(三) 蚕糸業	二〇八	1 林産業の変遷	二五〇
1 大豊町の養蚕	二一一	2 製材業	二五七
2 飼育法の変遷	二二四	(八) 製紙業	二六〇
3 蚕種	二二八	(九) 内水面漁業	二六四
4 製糸	二三一	(十) 鉄工業	二七二
5 第一次世界大戦の蚕糸業への影響	二三五	1 電源開発	二七六
(四) 茶業	二三二	2 高知県における電気事業	二七七
1 明治以前の茶業	二三二	3 大豊町の水力発電	二七九
2 碁石茶	二三三	(一) 経済の推移	二九三
3 明治の茶業、紅茶の製造	二三四	1 通貨と一般金融	二九三
4 製茶器械の発明	二三五	2 金融世情	二九四

3	銀行の進出……………	二九五
4	大正時代の米騒動と貧民救済……………	二九九
5	米価暴騰と貧民救済……………	二九九
(一)	各種講……………	三〇二
1	頼母子講……………	三〇二
2	萱講……………	三〇九
(二)	戦後政策の推移と経済動向……………	三二二
1	終戦直後の混乱……………	三二二
2	占領軍の経済民主化政策……………	三二二
3	悪性インフレの亢進……………	三二四
4	ヤミ市の繁盛……………	三二五
5	農漁村の好況……………	三二五
6	新旧円の引き換え……………	三一六
7	物価……………	三一九
8	インフレの抑制……………	三二一
9	南海大地震と物価の急騰……………	三二一
10	朝鮮戦争……………	三二二
三	農地と農地改革……………	三二三
(一)	明治の農地改革……………	三二三
(二)	昭和の農地改革……………	三二四
1	農地の買収と対価支払い……………	三二八
2	農地改革その後……………	三二九
3	大豊町の農地開放……………	三三二
4	戦後の農地開拓と松生部落……………	三三四
四	各種産業団体……………	三三八
(一)	農会と産業組合……………	三三八
1	農会の活動……………	三三九
2	産業組合の設立状況……………	三四一
3	農業会と農協の発足……………	三四九
4	大豊町農協の合併……………	三五七
(二)	森林組合……………	三六二
(三)	養蚕農協同組合……………	三七〇
(四)	漁業組合……………	三七三
1	吉野川漁業組合……………	三七三
2	嶺北漁業協同組合……………	三七七
(五)	農業共済組合……………	三八〇
(六)	商工会……………	三八四
第三章	宗 教……………	
一	町内の宗教の種類……………	三九〇
二	神社神道の神社……………	三九一
1	氏子札の制……………	三九三
2	国家神道……………	三九四
3	信教の自由と政教分離……………	三九五
三	大豊町の宗教法人と祭祀……………	三九六
(一)	大豊の宗教法人……………	三九六
(二)	大豊で行われてきた諸祭式……………	三九九
四	神道諸教会……………	三九九
(一)	神宮教中屋教会……………	三九九

(一)	神道黒住教中屋教会所	四〇一
(二)	神道大社教	四〇二
(四)	金光教豊永教会所	四〇四
五	寺院と仏堂	四〇六
(一)	各宗寺院	四〇七
1	豊楽寺 真言宗智山派	四〇七
2	定福寺 真言宗智山派	四〇七
3	本誓寺 浄土真宗西本願寺派	四〇八
4	妙泰寺 日蓮宗	四〇八
5	靈光山明学院 修験道	四〇九
6	明光院 修験道	四〇九
7	新四国八十八ヶ所	四一〇
(一)	仏堂	四一一
六	その他の信仰習俗	四一二
(一)	陰陽師	四一二
(二)	博士	四一三
七	神仏分離と廃仏毀釈	四一四
八	新興宗教	四一七
(一)	天理教	四一七
(二)	創価学会	四一九
(三)	ひとのみち教	四二〇
(四)	立正佼成会	四二一
(五)	ほんみち教	四二一
(六)	生長の家	四二二

第四章 教 育

一	藩政時代の教育	四二四
二	明治の教育	四二七
三	大正の教育	四三六
四	昭和の教育	四四四
五	各学校の沿革	四五一
(一)	天坪小学校	四五一
(二)	久寿軒小学校	四五七
(三)	大杉小学校	四六〇
(四)	川口小学校	四六六
(五)	立川小学校	四七一
(六)	穴内小学校	四七六
(七)	大田口小学校	四八二
1	寺内尋常小学校	四八二
2	庵谷尋常小学校	四八三
3	大田口小学校	四八五
(八)	豊永小学校	四八九
1	大砂子小学校	四九七
2	岩原小学校	五〇三
(九)	東豊永小学校	五〇七
1	東西豊永の紛議	五〇七
2	川井小学校	五一六
3	怒田小学校	五一八

	(+) 西峰小学校……………	五二一		(+) 国道……………	六〇八
	1 柚木小学校……………	五二五		1 国道三十二号線……………	六一〇
	(+) 大杉中学校……………	五二八		2 四国縦断新道の開通……………	六一六
	1 久寿軒中学校……………	五三二		3 昭和の改良工事……………	六一七
	2 天坪中学校……………	五三二	(-) 郡(県)道……………	1 杉ヶ本山線……………	六一八
	3 川口中学校……………	五三三		2 立川線……………	六二〇
	4 立川中学校……………	五三三		3 県道杉ヶ久保線のうち西豊永線……………	六二三
	(+) 穴内中学校……………	五三四		4 県道杉ヶ久保線のうち東豊永線……………	六二五
	(+) 大豊中学校……………	五三五	(-) 道路の現状……………	四 橋……………	六二九
	1 大田口中学校……………	五三九		1 平和橋……………	六三一
	2 岩原中学校……………	五三九		2 大杉大橋……………	六三四
	3 東豊永中学校……………	五四〇		3 大杉橋……………	六三五
	(+) 西峰中学校……………	五四一		4 旧吉野川橋……………	六三七
	(+) 幼児教育の変遷……………	五四五		5 長瀬橋……………	六三七
	(+) 大豊町立家政高等女学校……………	五四九		6 恵比寿橋……………	六三九
	六 青年補習教育……………	五五七	(+) 渡船場……………	1 川口渡船場……………	六四二
	七 社会教育……………	五六〇		2 穴内渡船場……………	六四四
	(-) 戦前の青年団活動……………	五六四		3 川戸の渡船場……………	六四六
	(-) 戦後の青年団活動……………	五八四		4 安野々渡船場……………	六四七
	(+) 婦人会……………	五九三		5 運搬船……………	六四八
	(+) 体育会……………	五九九	(+) トンネル……………	1 国鉄のトンネル……………	六五〇
				2 高須トンネル……………	六五一
					六五三
第五章 交通・通信					
一 道路網の発達……………	六〇八				

3	大豊・一の瀬トンネル	六五六
4	笹ヶ峰トンネル	六五七
二 交通機関の変遷		
(一) 人力車		
1	馬から人力車へ	六五八
2	人力車の普及	六五八
3	人力車の取り締まり	六五九
4	大豊地方と人力車	六六〇
(二) 馬車と荷車		
1	馬車	六六五
2	荷車	六六五
(三) 自転車及び自動車の普及		
1	自転車の普及	六六八
2	荷車	六六八
(四) 自動車		
1	自動車の普及	六七二
三 国鉄土讃線の開通		
1	国鉄土讃線の開通	六七七
四 郵便・電信・電話の推移		
(一) 郵便局		
1	繁藤郵便局	六八三
2	馬瀬郵便局	六八八
3	大豊郵便局	六八九
4	立川郵便局	六九一
5	豊永郵便局	六九二
6	下ノ土居郵便局	六九四
7	大久保郵便局	六九六
8	東豊永郵便局	六九九
9	西峰郵便局	七〇〇
10	西峰郵便局	七〇一
11	西峰郵便局	七〇四
(二) 繁藤郵便局		
1	繁藤郵便局	六八八
2	馬瀬郵便局	六八九
3	大豊郵便局	六九一
4	立川郵便局	六九二
5	豊永郵便局	六九四
6	下ノ土居郵便局	六九六
7	大久保郵便局	六九九
8	東豊永郵便局	七〇〇
9	西峰郵便局	七〇一
10	西峰郵便局	七〇四
(三) 馬瀬郵便局		
1	馬瀬郵便局	六九一
2	立川郵便局	六九二
3	豊永郵便局	六九四
4	下ノ土居郵便局	六九六
5	大久保郵便局	六九九
6	東豊永郵便局	七〇〇
7	西峰郵便局	七〇一
8	西峰郵便局	七〇四
(四) 立川郵便局		
1	立川郵便局	六九二
2	豊永郵便局	六九四
3	下ノ土居郵便局	六九六
4	大久保郵便局	六九九
5	東豊永郵便局	七〇〇
6	西峰郵便局	七〇一
7	西峰郵便局	七〇四
(五) 豊永郵便局		
1	豊永郵便局	六九四
2	下ノ土居郵便局	六九六
3	大久保郵便局	六九九
4	東豊永郵便局	七〇〇
5	西峰郵便局	七〇一
6	西峰郵便局	七〇四
(六) 大久保郵便局		
1	大久保郵便局	六九九
2	東豊永郵便局	七〇〇
3	西峰郵便局	七〇一
4	西峰郵便局	七〇四
(七) 西峰郵便局		
1	西峰郵便局	七〇一
2	西峰郵便局	七〇四
二 消防活動の推移		
1	大豊町消防団の沿革	七二九
2	嶺北消防署の沿革	七三二
三 衛生行政		
1	伝染病とその予防	七四一
2	衛生組合の設立	七四四
3	保健所と保健婦	七四七
4	医業史	七五一
第六章 警備・衛生		
一 警察制度		
(一) 本山警察署の沿革		
1	本山警察署の沿革	七二〇
2	巡査交番所	七二二
3	巡査派出所	七二三
4	巡査駐在所	七二三
5	巡査駐在所	七二三
6	巡査駐在所	七二三
7	巡査駐在所	七二三
8	巡査駐在所	七二三
9	巡査駐在所	七二三
10	巡査駐在所	七二三
11	巡査駐在所	七二三
12	巡査駐在所	七二三
13	巡査駐在所	七二三
14	巡査駐在所	七二三
15	巡査駐在所	七二三
16	巡査駐在所	七二三
17	巡査駐在所	七二三
18	巡査駐在所	七二三
19	巡査駐在所	七二三
20	巡査駐在所	七二三
21	巡査駐在所	七二三
22	巡査駐在所	七二三
23	巡査駐在所	七二三
24	巡査駐在所	七二三
25	巡査駐在所	七二三
26	巡査駐在所	七二三
27	巡査駐在所	七二三
28	巡査駐在所	七二三
29	巡査駐在所	七二三
30	巡査駐在所	七二三
31	巡査駐在所	七二三
32	巡査駐在所	七二三
33	巡査駐在所	七二三
34	巡査駐在所	七二三
35	巡査駐在所	七二三
36	巡査駐在所	七二三
37	巡査駐在所	七二三
38	巡査駐在所	七二三
39	巡査駐在所	七二三
40	巡査駐在所	七二三
41	巡査駐在所	七二三
42	巡査駐在所	七二三
43	巡査駐在所	七二三
44	巡査駐在所	七二三
45	巡査駐在所	七二三
46	巡査駐在所	七二三
47	巡査駐在所	七二三
48	巡査駐在所	七二三
49	巡査駐在所	七二三
50	巡査駐在所	七二三
51	巡査駐在所	七二三
52	巡査駐在所	七二三
53	巡査駐在所	七二三
54	巡査駐在所	七二三
55	巡査駐在所	七二三
56	巡査駐在所	七二三
57	巡査駐在所	七二三
58	巡査駐在所	七二三
59	巡査駐在所	七二三
60	巡査駐在所	七二三
61	巡査駐在所	七二三
62	巡査駐在所	七二三
63	巡査駐在所	七二三
64	巡査駐在所	七二三
65	巡査駐在所	七二三
66	巡査駐在所	七二三
67	巡査駐在所	七二三
68	巡査駐在所	七二三
69	巡査駐在所	七二三
70	巡査駐在所	七二三
71	巡査駐在所	七二三
72	巡査駐在所	七二三
73	巡査駐在所	七二三
74	巡査駐在所	七二三
75	巡査駐在所	七二三
76	巡査駐在所	七二三
77	巡査駐在所	七二三
78	巡査駐在所	七二三
79	巡査駐在所	七二三
80	巡査駐在所	七二三
81	巡査駐在所	七二三
82	巡査駐在所	七二三
83	巡査駐在所	七二三
84	巡査駐在所	七二三
85	巡査駐在所	七二三
86	巡査駐在所	七二三
87	巡査駐在所	七二三
88	巡査駐在所	七二三
89	巡査駐在所	七二三
90	巡査駐在所	七二三
91	巡査駐在所	七二三
92	巡査駐在所	七二三
93	巡査駐在所	七二三
94	巡査駐在所	七二三
95	巡査駐在所	七二三
96	巡査駐在所	七二三
97	巡査駐在所	七二三
98	巡査駐在所	七二三
99	巡査駐在所	七二三
100	巡査駐在所	七二三

医籍録……………七五三

第七章 各種公共機関

一 高知地方事務局豊永出張所……………七六〇

二 農林省高知作物報告事務所大杉出張所……………七六四

三 大豊蚕業指導所……………七六五

四 農業改良普及所……………七六八

五 大豊林業指導出張所……………七七一

六 高知県山間農業試験場……………七七二

七 高知営林局南小川治山事業所……………七七五

八 本山土木事務所……………七七七

第八章 社会福祉

一 社会保障制度……………七八二

(一) 医療保険制度……………七八二

1 大豊町の疾病の特徴……………七九〇

2 新聞ルポとその考察……………七九一

3 へき地医療と成人病検診……………七九五

(二) 年金制度……………七九六

二 老人福祉……………七九八

三 司法保護事業……………八〇一

(一) 人権擁護委員……………八〇一

(二) 民生委員・児童委員……………八〇二

1 民生委員……………八〇二

2 児童委員……………八〇五

(三) 保護司……………八〇七

四 社会福祉協議会……………八〇八

五 保育所の変遷……………八一二

1 天坪保育所……………八一二

2 久寿軒保育所……………八一三

3 大杉保育所……………八一三

4 立川保育所……………八一三

5 穴内保育所……………八一四

6 大田口保育所……………八一四

7 豊永保育所……………八一五

8 岩原保育所……………八一六

9 東豊永保育所……………八一六

10 西峰保育所……………八一七

第九章 災害と防災

一 大豊町の火災……………八二〇

(一) 粟生の火災……………八二〇

(二) 西豊永村役場の火災……………八二一

(三) 落合の火災(第一次)……………八二二

(四) 落合の火災(第二次)……………八二三

	(甲)	落合の火災(第三次)	八二四
	(乙)	落合の火災(第四次)	八二五
	(丙)	連火の火災	八二七
	(丁)	川井の火災	八二八
	(戊)	澁長の火災	八三二
	(己)	東土居の火災	八三三
	(庚)	大杉中学校の火災	八三五
	二	大豊町の風水害	八三九
	(一)	明治四十四年の大洪水	八四〇
	(二)	大正十四年の台風	八四〇
	(三)	篠木の災害	八四二
	(四)	列車転落事故	八四三
	(五)	穴内小学校の倒壊	八四四
	(六)	繁藤の大災害	八四六
	三	大豊町の地滑り	八四八
	(一)	小川地滑り災害	八五九
	(二)	岩原トウジ山の地滑り	八六三
	第十章	文化	
	一	文化推進協議会の活動	八六六
	1	音楽	八七〇
	2	詩吟	八七一
	3	日本舞踊	八七一
	4	書道	八七二
	二	文化人	
	1	笹岡忠義	八八四
	2	黒田禮二	八八五
	3	西村自登	八八七
	4	吉川喜美	八八八
	5	詩・短歌	八七三
	6	俳句	八七四
	7	絵画	八七六
	8	写真	八七六
	9	太刀踊	八七七
	10	獅子舞	八七八
	11	茶道	八七九
	12	華道	八七九
	13	民謡・三味線	八八〇
	14	民芸・手芸	八八〇
	15	文化刺繍・組紐	八八一
	16	囲碁・将棋	八八一
	17	剣舞	八八一
	18	盆栽	八八二
	19	愛鱗クラブ	八八二
	20	民具	八八二
	21	切手クラブ	八八二
	22	郷土芸能岩原・永瀨神楽	八八三
	23	硬筆クラブ	八八三
	24	その他	八八三

三 文化団体……………八九〇

1 大豊史談会……………八九〇

2 大豊町教育研究会……………八九一

3 山の教師……………八九二

4 学校文集……………八九三

5 地域文集……………八九五

6 嶺北総合美術展覧会……………八九五

7 麦村会……………八九六

8 立川「どんぐり会」……………八九七

四 文化財と史蹟……………八九八

(一) 文化財保護の歩み……………八九八

(二) 町の文化財保護委員会……………八九九

(三) 町の文化財……………九〇〇

1 豊楽寺薬師堂……………九〇一

2 豊楽寺の三尊像……………九〇三

3 定福寺……………九〇四

4 県指定有形文化財……………九〇四

5 旧立川番所書院……………九〇六

6 大豊町立民俗資料館……………九〇九

7 (無形重要文化財)岩原・永渕神楽……………九一一

8 特別天然記念物杉の大スキ……………九一四

9 施餓鬼舟……………九一六

10 大砂子の獅子舞……………九一八

11 寺内の太刀踊……………九二〇

12 百手……………九二一

第十一章 人物

一 天坪地区……………九二四

1 北村宗義……………九二四

2 永野鼻鹿……………九二四

3 岡田尚武……………九二五

4 杉本太郎……………九二五

5 佐藤精郎……………九二六

6 西岡茂義……………九二七

7 池田孫七……………九二七

8 小笠原高義……………九二八

9 坂本重勅……………九二九

10 北村晴喜……………九三〇

二 大杉地区……………九三〇

1 飯田実吾……………九三〇

2 飯田格満……………九三一

3 飯田俊広……………九三二

4 森孝三郎……………九三三

5 森喬木……………九三四

6 佐々木浜五郎……………九三四

7 永野寛次……………九三五

8 田鍋常吾……………九三六

9 朝倉端一……………九三六

10 橋本幸彌……………九三七

11 橋本勝茂……………九三八

11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	三 西豊永地区				24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12		
桑名久寿治	石川政市	中西茂樹	北村治三男	山中化育	秋山鹿連	都築利吉	曾田時中	桑名定親	桑名定慶	門田久太郎	門田久太郎	西豊永地区	鈴木友茂	秋山重実	小笠原清浩	野島信豊	崎田久森	杉本幸芳	久保英気	朝倉周威	門脇恒実	大松充盛	山下奉文	山下奉表	山下佐吉	山下佐吉	山下奉表	山下奉文	山下佐吉
九五九	九五八	九五七	九五七	九五六	九五六	九五五	九五五	九五四	九五四	九五三	九五三	九五二	九五二	九五〇	九五〇	九四九	九四八	九四七	九四六	九四四	九四三	九四一	九四〇	九三八	九三八	九四〇	九四一	九四一	九三八

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	四 東豊永地区				22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12				
上村猛男	秋山俊一郎	上村基正	小笠原千尋	門田長馬	三谷可司	都築英雄	門田繁穂	平石男守	三谷彦右衛門	三谷軌秀	秋田伊三郎	秋山楠藏	東豊永地区	釣井朋水	三谷義里	小嶋清利	豊永雄喜	大利国太郎	三谷丑郎	都築栄	山中利信	上村萬清	都築兵左	長野楠太郎	長野楠太郎	都築兵左	上村萬清	山中利信	上村萬清	長野楠太郎	
九七五	九七五	九七四	九七三	九七三	九七二	九七一	九七〇	九七〇	九六九	九六九	九六八	九六七	九六七	九六六	九六六	九六五	九六四	九六四	九六三	九六三	九六二	九六一	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六一	九六一	九六二	九六二	九六〇

第十二章 戦争と兵事

14	三谷亀松	九七六
15	志和久寿満	九七七
16	三谷隆俊	九七七
17	吉川潔臣	九七八
18	三谷泉水	九七八
19	高木定盛	九八〇
20	氏原尊法	九八〇

一 戊辰の役……………九八二

二 西南の役……………九八四

三 日清戦争……………九八七

四 日露戦争……………九九一

五 第一次世界大戦とシベリア出兵……………九九九

六 昭和時代の戦争……………一〇〇一

(一) 軍部の台頭……………一〇〇三

1 満州事変……………一〇〇三

2 満蒙開拓移民……………一〇〇四

3 国体明徴運動……………一〇〇五

4 右翼運動……………一〇〇五

5 テロ事件……………一〇〇六

6 二・二六事件……………一〇〇七

(二) 戦場の生活……………一〇〇九

1 西南の役従軍日記……………一〇〇九

(一) 日中戦争従軍記……………一〇一一

2 戦時の生活……………一〇一五

1 国家総動員法……………一〇一五

2 大政翼賛会……………一〇一六

3 産業報国会……………一〇一七

4 経済統制……………一〇一八

5 米の供出と配給制度……………一〇一九

6 物資の供出……………一〇二一

7 労務統制……………一〇二二

8 出征兵士と留守家庭……………一〇二三

9 衣料切符と代用品……………一〇二四

10 生活物資の配給……………一〇二五

11 警防団……………一〇二六

12 防空訓練……………一〇二六

(二) 公職追放……………一〇二九

七 戦争と平和……………一〇三三

八 戦没者名簿……………一〇三六

第十三章 民俗

一年中行事……………一〇八二

1 餅つき……………一〇八三

2 松飾り……………一〇八四

3 大晦日……………一〇八四

4 すすはらい……………一〇八五

29	九月節句	一〇九八
28	神迎え	一〇九八
27	神送り	一〇九八
26	猪の子	一〇九七
25	八月十五日	一〇九七
24	盆踊り	一〇九六
23	盆祭り	一〇九四
22	七夕	一〇九四
21	夏祭り	一〇九四
20	半夏生	一〇九三
19	オサバイ様	一〇九三
18	五月五日	一〇九二
17	彼岸	一〇九二
16	三月三日	一〇九二
15	社日	一〇九一
14	二十日正月	一〇九一
13	厄除け	一〇九一
12	奥正月・かいつり	一〇九〇
11	七日正月	一〇九〇
10	家祈禱	一〇八九
9	山の口明け	一〇八九
8	年頭	一〇八九
7	鯨初め・泊まり初め	一〇八八
6	門明け	一〇八七
5	元日	一〇八六

30	秋祭り	一〇九八
31	十二月一日	一〇九九
32	辰巳	一一〇〇
二	雨乞い	一一〇〇
三	屋根替え	一一〇一
四	祝いごとの習俗	一一〇二
五	葬式の習俗	一一〇六
六	結婚	一一〇九
七	結び	一一一〇
年表		
あとがき	石原正恒	

大豊町の概要

位 置

本町は、高知県の東北端四国山脈のほぼ中央部、北緯三十三度五十六分、東経百三十三度三十七分に位置する山間地域である。

東は徳島県三好郡西祖谷山村・同東祖谷山村、南は香美郡物部村・同香北町・同土佐山田町、西は本山町、北は愛媛県伊予三島市・同県宇摩郡新宮村・徳島県三好郡山城町に接している。

地勢・地質

町域の周囲は、北にカガマシ山・椽尾山・三傍示山・野鹿池山・黒瀧山、南に鉢ヶ森・茂ノ森、西に八丁山・工石山などの標高一千以上の高山がそびえ、中央を東西に吉野川が貫流し、支流の穴内川・立川川・奥大田川・南小川などの流域に沿って発展してきた。標高二百から七百の急傾斜地に散在する集落からなり、耕地は棚田、傾斜畑で平地は至って少ない。

町内の土質は、地質学上、三波川結晶片岩中の清水構造帯に属し、全国でも有数の地すべり地帯である。

気象

太平洋の暖流は、高知県の沿岸近くを北流するため、本県は全国的にも気温は高い。

しかし、温暖にして湿潤な水蒸気を含む気流は、四国山脈の斜面に妨げられ、冷却されて多量の雨を降らせる。

昭和四十年から四十九年の平均気温、降水量は上のとおりである。

平均気温・平均降水量
(昭和40~49年平均)

月別	気 温	降 水 量
1	2.9°C	94.6mm
2	3.7	103.6
3	6.2	146.9
4	12.5	266.3
5	16.6	248.2
6	20.0	344.4
7	24.4	391.2
8	25.1	437.0
9	21.3	515.7
10	15.2	167.5
11	9.7	95.5
12	4.5	74.6
年間	13.5	240.5

人口の動態

昭和三十年四か村が合併して大豊村となったときの人口は、二万二千三百八十六人であった。

本町の八〇%以上は山林であり、農地は約七%で、水稻や高原野菜の栽培のほか養蚕・牧畜が行われているが、きびしい立地条件のため、人口流出による過疎が進んでいる。

町では四国高速自動車道の開通に期待して農業の改善と工場の誘致を図っている。

昭和三十年以降の人口動態は次のとおり。

いる。

当町では現在のところ縄文・弥生時代の遺跡・遺物は全く発見されていない。
 古代奈良時代になって、神亀元年（七二四）寺内に豊楽寺、粟生に定福寺が行基によって開創されている。
 平安時代の初期延暦十六年（七九七）都と土佐国衙を結ぶ官道が立川を通じ、駅家が置かれた。『日本後紀』には「舟川駅」、『延喜式』兵部省には「丹治川」とあり、現在の立川である。

更に平安初期の遺跡として、立川川の中流の河成段丘上にコヲサキ遺跡が発見されて平安期の須恵器片が出土して

沿革

区分 年次	世帯数	人口		
		男	女	計
昭和30	4,704	11,152	11,234	22,386
35	4,322	10,402	10,448	20,850
40	4,076	8,289	8,745	17,034
45	3,814	6,494	7,010	13,504
50	3,685	5,610	6,013	11,623
55	3,474	4,818	5,313	10,131
60	3,313	4,318	4,765	9,083

備考

昭和31年9月1日
 旧天坪五部落の分村により
 人口1,664人減

同遺跡は立川刈谷コヲサキにあり、本格的な発掘調査はされていないが、地形、出土遺物の時代などから、延暦官道の駅家の可能性が強いといわれている。

中 世

寺内の豊楽寺薬師堂の釈迦如来像胎内銘に薬師堂建立の年月日と、造仏結縁者の名がある。それには八木・佐伯・宗我部・福島・上毛氏らが名を連ねており、これらは当時この地方の支配者と思われ、後代の棟札などに佐伯・福島の姓が見えることから推定できる。

南北朝のころになって、阿波国の守護となった小笠原氏の一族が、豊永地方の勢力者となり、一方西峰方面には、寿永四年（一一八五）平氏が屋島の合戦に敗れ、阿波祖谷山の阿佐氏とともに一族の小松采女助・丸野九郎兵衛が移り住み三谷氏の祖となったといわれる。

本山郷では戦国時代本山氏が勢力者であったが、永禄七年本山茂辰の代に、長宗我部元親に滅ぼされた。

天正三年（一五七五）元親の土佐統一はなり、小笠原・本山の家臣の多くは、在地一領具足として近世山内藩政まで残った。

近 世

慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦いで、長宗我部は除封され、代わって山内一豊が慶長六年に入国し、明治二年（一八六九）版籍奉還まで山内藩政が続いた。

山内藩政下の地方には大庄屋制が置かれ、豊永郷では豊永氏・桑名氏・長瀬氏・山本氏・吉村氏と続き、その役所は大平にあり後に下土居（現在豊永小学校所在地）に明治三年まで置かれた。

本山郷の大庄屋は、上の村と下の村に分かれたが、現在大豊町となっている旧大杉村は下の村に属し、文化四年からの大庄屋は合田氏（五代）が務め、役所は津家にあつたようである。

近現代

本町は明治四年の区制では、長岡郡第二十区から第二十三区に属し、同八年の大区小区制により第五大区一小区から四小区に所属した。

明治二十二年市町村制施行により、東豊永村・西豊永村・大杉村・天坪村となり、昭和三十年合併まで続いた。昭和三十年右四か村が合併して大豊村となった。

翌年旧天坪村南部五部落が分村して、土佐山田町へ編入した（面積四一・〇平方はら、人口一、六六四人減）。昭和四十七年町制施行により大豊町となった。

史跡・文化財・文化施設

本町には国宝豊楽寺薬師堂（寺内）、国特別天然記念物に杉の大スギ、国重文に旧立川番所書院（立川下名）、同じく木像薬師如来坐像・木像阿弥陀如来坐像・木像釈迦如来坐像（寺内豊楽寺）、国重要有形民俗文化財に土佐豊永郷及び周辺地域の山林生産用具二千五百九十五点（粟生町立民俗資料館）、国重要無形民俗文化財に土佐神楽岩原・永

刈神楽（岩原永刈）、高知県有形文化財に木像地藏菩薩立像六軀・木像阿弥陀如来坐像・木像地藏菩薩半跏像・木像薬師如来坐像（粟生定福寺）、大豊町指定無形民俗文化財に施餓鬼船行事（瀬掛け）、大砂子の獅子舞（大砂子）、寺内の太刀踊がある。